

小児気管支喘息患者における全身麻酔中の呼吸器合併症の検討

生野慎二郎 比嘉 和夫 香取 清
仁田原慶一 濱田 孝光 楠本 剛
重松 研二

福岡大学医学部麻酔科学

要旨：22年間に管理した全身麻酔症例から気管支喘息（喘息）の既往があった15歳以下の小児の麻酔記録を抽出し，麻酔管理中の呼吸器合併症の発生頻度を喘息の術前重症度，麻酔法および麻酔薬について後ろ向きに検討した．喘息の既往があった小児の全身麻酔症例は492例であった．麻酔管理中の呼吸器合併症の発生頻度は4.9%（492例中24例）で，その63%が麻酔導入時に発生していた．各揮発性吸入麻酔薬で呼吸器合併症の頻度に有意な違いはなかったが，イソフルランでは他の揮発性吸入麻酔薬と比較して高い傾向にあった．静脈麻酔で管理された症例では呼吸器合併症を呈した症例はなかった．

キーワード：小児患者，気管支喘息，全身麻酔，呼吸器合併症